

ときには、辛口

22

◆塾の禁止？

「教育再生会議」座長の持論

子供の学力低下は深刻な問題だから、政府も本腰を入れざるをえないのだろう。識者を集めて「教育再生会議」を開いている。

会議の分科会座長の一人、ノーベル化学賞の野依良治博士が「塾の禁止」を繰り返して主張していることが昨年暮の新聞で報じられていた。「塾はできない子が行くためには必要だが、普通以上の子供は塾禁止にすべきだ。公教育を再生させる代わりに塾を禁止する」と再三にわたって強調したという。

しかし今や塾は全国津々浦々にある。塾と



松本道介
Matsumoto Michisuke

いう名の学校は一種の「産業」となっており、政府がそんな「産業」を禁止することなどできるわけがない。当然ながら多くの反対意見が出て、再生会議のまとめた第一次報告の原案に「塾の禁止」という提言はもりこまれなかった。

今の子供と昔の子供時代

私は野依博士と同世代の人間だから博士の意見には大いなる共感を覚える。われわれの子供の頃は塾などなかったし、テレビも洗濯機もクルマもなかった。エアコンもなければ電話やラジオさえほとんどない時代だった。

当然ながらできない子のための塾もなかった。まさにはじゆうぶんにあった。昼間はどんなに遊びほうけても夜になれば本を読む時間も宿題をやる時間もあった。

しかし今の子供はいそがしい。塾をはじめテレビにテレビゲームにケータイにウォークマン、それにパソコン等々やることはいっぱいあり、勉強の時間のみならず食事の時間、睡眠の時間さえどうやって見つけるかという感じらしい。

ただし、これをいそがしいと見るのは年寄りの私だけなのかもしれない。今の子供たちからすると時間のたっぷりあった昔の生活は退屈きわまりないものに見えるにちがいない。

だが、私は子供の頃をいくら思い出しても退屈したという覚えがない。覚えているとすれば腹をすかせていたことくらいである。小学校一年から五年まで日米戦争という時代だからお菓子など食べた覚えのないこともよく覚えているが、退屈したという覚えはない。

これと反対に私の世代から見ると、今の子供たちのいそがしい生活がとても退屈そうに見える。塾をはじめテレビにテレビゲーム

にケータイにウォークマンそれにパソコン等、やることはいっぱいあり、食事の時間、睡眠の時間を減らすくらいいいそがしいのになぜか退屈そうだ。

『退屈しのぎの文明装置』

それはたぶんテレビにテレビゲーム、ケータイ、パソコン、ほとんどすべてのものが『退屈しのぎ』の『ひまつぶし』に見えるからである。なるほど私たちをはじめの頃は感激

してテレビを見ていた。日本でテレビ放送のはじまったのは私が大学に入った頃で、相撲好きの私はいつも電機屋の前の人ばかりで胸をはずませて栃錦、若ノ花を見たものだ。しかしその後十年二十年してテレビが日常茶飯のものになると、次第に退屈しのぎになっていった。テレビゲームをやったことはないがどう見ても退屈しのぎである。いずれも身体を動かさず頭をほとんど使わず、常に受け身でいることができるからだ。

受け身といえれば乗りものなどもすべて受け身だ。とりわけクルマに飛行機はベルトで狭い椅子にくくりつけられているのだから、完全に車椅子状態である。

人間という生きものはどう見ても動物である。動物とは動く生きものであり、汗を流して身体を動かし頭を使って食べものを探すが動物本来の生きかたである。

だが現代の文明人ほど動かない生きものはない。一見目まぐるしく動いているように見えるが、動いているのはクルマに電車で飛行機であり、人間自体は手も足も動かさないし頭もほとんど使っていない。

動くことが生きることだとすれば人間自身は五十年前の人間の十分の一くらいしか生きていないのかもしれない。あと十分の九は文明の機器によりかかっている『退屈しのぎ』、まるで機械中毒、文明中毒にかかった半病人のような生活を送っている。

そんな生活が続いたせいだろうか。今や大人にも子供にもウツと呼ばれる状況がひろがってきた。ウツとは言ってみたものの何のことだかよくわからない。素人が口にするウツのほとんどは医者が治療の対象とする鬱病ではないのかもしれない。

生きる力—ということ

にもかかわらず、ウツと呼ぶしかないよう

な人がそこにいる。何なのだろうと考えるうちに、現役教師だった頃のことを思い出した。当時は毎年のように卒業単位の危ない学生の相談に乗ったものである。話していないのも思ったのは、彼らに学力は欠けていない、本当に欠けているのは生きる力だということだった。ほんの少し勉強すれば単位など悠々とれるのに、その『ほんの少し』の努力のできない若者たち……。

彼らに元気を回復させるためには、塾をはじめテレビにクルマ、ケータイ、パソコンなどいっさいの便利なものを禁止するしかないのだろう。しかしそんな『大産業』を禁止することなど出来るはずもない。

したがって教育の再生などおおよそ無理だし、人間の活力の回復も望み薄だと私は見ているが、ただひとつの救いは一人一人の人間の努力が禁止されていないことである。

子供が自分で塾をやめることは禁止されていないし、スポーツであれ音楽であれ農作であれ、個人がからだを動かして自分の頭を使う努力をすることはいささかも禁止されていないのだ。

(中央大学名誉教授)